



ニュース
NEWS

レター
LETTER No.29
2011年7月25日

■ □ 2011 年度通常総会報告 □ ■

とき:2011年5月15日(日)午後2時~5時 ところ:ぶーたん

出席:個人正会員37人(うち委任状24人)、団体正会員1団体、賛助会員1人

※2011年5月15日現在、個人正会員50人、団体正会員1団体、賛助会員1人

議長:飯尾毅 議事録署名人:梅本悦二、溝口喜順

5月15日(日)午後2時から上世屋の「ぶーたん」で、正会員38人・団体(うち委任状24人)と賛助会員1人が出席してNPO法人里山ネットワーク世屋の2011年度通常総会が開かれました。

総会は飯尾理事長を議長に選出。2010年度事業報告ならびに決算報告・監査報告、続いて2011年度事業計画ならびに予算の各案を審議の上、承認しました。

このなかで三好監事から、当会の財政状況の厳しさが指摘され、このままいけば次年度、これまでのような専従を置いての活動は不可能になるとの認識が示されるとともに、会員各位の知恵を出し合って早急に関後の対応策を考える必要性が強く訴えられました。

また事業計画では、従来の事業区分けを整理し直し、各事業の運営はプロジェクトリーダー制、担当理事制で行うこととしました。特に最近、会員向けの取り組みが少ないことから、生物調査など他の事業と組

み合わせて里山案内人講座を再開し、会員が世屋に集まれる機会づくりに力を入れようということになりました。

引き続き、6月30日で任期満了となる役員の改選が行われ、これまで副理事長として当会を支えていただいた小川雅道さんから退任および退会の申し出があったことから、後任の副理事長に梅本悦二さんを選任。また小川さんを除く役員全員が重任となりました。

さらに賛助会員会費について、従来の入会金10,000円、年会費20,000円では会員の負担が大きいとして、会費を値下げすることになりました。

最後に、議事録署名人に梅本悦二さんと溝口喜順さんを選任し、議事を終了しました。

【新しい賛助会費】

入会金:なし

年会費:1,000円

■ □ 活動報告 ① □ ■

【廃村・浅谷講演会&ウォーク】

とき:2011年5月15日(日)午前10時~午後1時30分

講師:小倉文生さん ウォーキングガイド:河嶋英一さん

参加者:10人

総会関連イベントとして5月15日(日)午前10時から10人が参加して、廃村「浅谷」の講演会と浅谷ウォークが行われました。講師を務めていただいた

小倉文生さんは浅谷の出身で昭和35年まで住んでおられた方です。浅谷は世屋川の龍ヶ壺付近から支流の浅谷川に沿って南西方面へ2キロほどさかのぼった



浅谷の思い出を語る小倉文生さん

辺りにあった小倉一族の村。先祖は木地師といわれ、小倉さんが子供のころは6戸の家があり、昭和 36、37 年ごろまで人が住んでいたといえます。

小倉さんによれば、浅谷の畑や田んぼには「古屋敷」「元屋敷」「墓の前」「墓の向こう」「木地が坂」などの名前が付いていたが、これはかつて村が火事で焼けた後、別の場所に家を建てたため、木地師などについて書かれた古い文書が残っていないのも、この時焼けてしまったからではないかとのこと。小倉さんが子供のころには木地師はおらず炭焼きが中心だったが、ただ庄屋さんの家では直径 30センチほどの漆塗りの丸いお膳を使っていたのを覚えており、木地師の村の名残ではないかと話してくれまし

た。またブナ材の変わった使い方として、牛小屋の壁にブナ板を使うと牛が角で突いても大丈夫だったという話を披露してくれました。

講演の後、会員の河嶋英一さんのガイドで浅谷川に沿った林道跡を 2 時間ほど散策。かつては普通車が通れるほどの広さがあり、この道が早い時期に造られていたおかげで炭や薪の輸送・販売が容易だったため、小さな村ながら生活はまぎまぎだったという、村にとってとても大切な道でした。

集落跡地までの中ほどにきれいなお花畑があったので花に囲まれての昼食。オオルリやウグイスなどのさえずりを聞きながら食べた弁当は最高でした。



荒廃した浅谷林道をたどる

■□ 活動報告 ② □■

【限界集落新規就農者育成事業の受け入れ】

と き:2011年4月1日~2012年3月31日

委託者:宮津市

宮津市の委託事業として、4月1日から1年間の予定で「限界集落新規就農者育成事業」に取り組んでいます。里山ネットワーク世屋が就農希望者 1 人を雇用し、過疎・高齢化が進む山間地の耕地の維持や復活などの新規担い手を育成しようというもので、現在、松尾出身の前野準治さん(62)がUターンし、松尾農家組合の小林康司さん(当会会員)の指導で研修に励んでいます。

研修では1年かけて、紙マルチを使った無農薬米の栽培、農地や水路、農道など農業用施設の維持・

管理、防護柵や檻の設置・管理などの獣害対策等々を習得することになっています。

主要な研修場所である松尾田んぼは 14 ヘクタールを超す棚田が圃場整備され、飯尾醸造のお酢の原料となる無農薬米も栽培されていますが、農業人口の減少などにより、耕作放棄地が生じる恐れもあるということです。

前野さんは研修後、松尾の生家に住んで農業に従事することによって、松尾における米作りの担い手として期待されています。

■□ 活動報告 ③ □■

【「里の仕掛人」事業の受け入れ】

とき:2011年6月1日～2012年3月31日

委託者:京都府

6月1日から「里の仕掛人」として、滋賀県出身の山形歩さんがぶーたんを拠点に、世屋の地域づくりのお手伝いに携わっています。これは過疎・高齢化が進む農山村に都市の若者を「里の仕掛人」として派遣し、人材の面から地域の課題解決を支援しようという、京都府の「里の人づくり事業」の一環です。山形さんは今年初めから世屋のマップづくりに関わったのが縁で、ふるさと会議世屋から世屋地域の仕掛人として推薦を受け、採用が決定。大学卒業と同時に世屋に移り住み、活動を始めました。里山ネットワーク世屋は仕掛人の雇用に関わる業務や、仕掛人の行う地域協力活動・起業活動への支援業務に関する委託契約を府と結んで、事業の一端を担っています。

今と昔、地域の内と外をつないで

里の仕掛人 山形 歩

こんにちは。今年からお世話になっています山形歩と申します。6月から里山ネットワーク世屋の事務所ぶーたんに住まわせていただいています。あわただしく1か月が経ち、本当にいろいろな方にお世話になりっぱなしです。今までたくさんの方が世屋に出入りして、やっと今こんな制度も受け入れてもらえるようになったのかなあと考えると、皆で苦労してきれいにされたぶーたんも、今こうして来させてもらったことも、本当にありがたいと感じます。

仕掛人という名前の通り、何か仕掛けるのが仕事なのですが、なかなか一筋縄ではいかないのがやりがいでもあり、悩みでもあります。木子、松尾、上世屋、下世屋、畑、それぞれの集落がそれぞれの良さや問題を抱えています。若さゆえできることと、できないこと。今の時代だからできることと、昔だからできたこと。外から来たからこそ見えるものと、ここで育ったからこそ見えるもの。そしてこの風土だからこそあるもの。それをつな

げて、どう、もう一つ枝を伸ばすのか、ゆっくり見極めながら光の方向をみつけるのが大切なのかなあと感じます。今は毎日セミとにらめっこしながら、世屋の初夏の気候の変化を楽しんでいます。

6月末には上世屋に新しく休憩所がオープンしました。そこで餅つきをして、笹餅、さともち、栗餅などを



上世屋休憩所のオープニングセレモニー

作って、おこわを家で作って持ってきてくださった地元の方もいて、帰りに皆どっさり手土産を持って帰ってもらいました。無事に終わった後、休憩所でほっとして皆で食べたお餅はとても甘く感じました。休憩所は2階とトイレはどなたでも自由に使うことができます。和室を



畑での共同作業

使うときは、自治会長さんに相談して下さい。

先日は京都大学の農交ネットの皆さんと、飯尾醸造さんと溝口家でお世話になりました。他にも世屋加工グループと日ヶ谷の皆さんで綾部の視察に行ったり、地域コト起しという地域同士の連携を大切にする事業なども始まりました。

少しずつ少しずつ、一步一步。

皆様、どうか末長いお付き合いよろしくお願ひします。

■□ 会員の活動 ① □■

【祇園祭の笹刈り講習会ご案内】

と き:8月2日(火) 午前10時～午後3時ごろ
と ころ:世屋高原家族旅行村「しおぎり荘」と付辺の山

京都の祇園祭では毎年200万枚の笹がチマキに使われるそうですが、3年前から里山ネットワーク世屋の橋渡しで、松尾在住の溝口喜順さん(当会会員)が中心となって丹後からもチマキザサの出荷が行われており、去年は40万枚を出荷しました。夏から秋にかけて出荷した笹は花背の農家で乾燥・保存され、翌年の祭りで使われます。丹後の笹は品質が良いということで、世屋の特産にとの期待も生まれています。

今年も笹刈りの季節が近づきました。シーズンの前に、1人でも多くの人に笹刈りの仕事に関心を持

ってもらい、笹を刈る仲間を増やそうと、8月2日に「笹の刈り取り講習会」(主催:世屋の産業を考える会「世屋の笹を祇園祭に」プロジェクト、協力:NPO法人里山ネットワーク世屋)が開かれます。

講習会では、長く笹の仕事に関わってこられた花背の方々や、当会理事の深町加津枝京都大学大学院准教授らを講師に招き、講義と実技講習が行われます。参加費は無料、募集人数は30人程度です。ご家族や友達にも声をかけていただき、多数ご参加下さい。

お申し込み・お問い合わせは溝口喜順(みぞぐち・よしのぶ)さん(Tel0772-27-0727)まで。

■□ 会員の活動 ② □■

【『ぼちぼちと京都』にブログの連載】

“京都の知恵と文化を生かした暮らし方をサポートする”京都府のウェブサイト『ぼちぼちと京都』に去年1年間、「上世屋の新米お婆さん」と題し四季折々の世屋を紹介するブログを掲載いただいた当会

会員の坂田正美さんの後を受け、2月から同じく会員の溝口喜順・美徳ご夫妻が「田舎暮らし12ヶ月」と題し、松尾の自然・暮らし・食をテーマにしたブログを連載しています。

「ぼちぼちと京都」で検索し、ぼちぼちと京都一エコラムー京都府北部からアクセスして下さい。

..... 《事務局だより》

■3、4、5、6月は次から次へと出て来る提出書類の作成に追われる日々で、広報がすっかりおろそかになり会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。遅くなりましたが、ニュースレター29号をお届けします。

■世屋周辺は地すべり地形が多く見られ、ぶーたんのある上世屋集落も地すべりで出来た緩傾斜地に立地していると聞いてはいましたが、この春、銚子の滝の上流で地滑りが起き、棚田や林道に亀裂や段差

が出来ました。このため上世屋から成相や駒倉方面への道が通行止めになっていて、ブナ林がある高山の登山口へも車での乗り入れができなくなっています。

■ブナと言えば、上世屋集落から少し上がった標高440メートル地点に大きなブナがあります。この辺りでは一番低い標高で見られるブナで、春にはいっぱいの花をつけていたのですが、なんと今年は6月のうちに実がなって落ちてしまいました。一体どうなっているのでしょうかね。(永久徹)

NEWS LETTER ニュースレター No.29

発行: NPO 法人里山ネットワーク世屋

〒626-0227 京都府宮津市字上世屋 560-1

TEL/FAX0772-47-3540 bhutan@mxe.nkansai.ne.jp

編集: 永久徹

印刷協力: (株)飯尾醸造